

## 壁を階段に変える力

2024・10・16 校長 重枝一郎

ついつい口にしてしまうもの。それは「悪口」。

さて、「悪口」とは？ 「人を傷つける言葉」という人が多いのではないかと思います。でもそれはそうではないのです。例えば、受験して、「残念ながら不合格です」と通告されたり、好きな人に告白して、「ごめんなさい。お断りします」と言われても傷付きません。でも、事実を告げられているだけでは、それは「悪口」ではありません。また、昔から付き合いのある親友同士が、お互い悪態をついても、それは「軽口」のレベルです。「軽口」がたたけるのは、仲がいい証拠だったりします。1対1のケンカで暴言を吐き合うのも「悪口」ではなく、単なるののしり合いです。

では、「悪口」を定義すると、「集団の中で誰かと比較して、他人を劣った存在だと言うこと」になります。

例えば、背が高い順・低い順に並ぶようなことは、単なる事実によるものです。身長の数値自体に意味はないのですが、そこに優劣が入ると「悪口」になります。また、人の中に種類を見出し、「上だ、下だ」と決めつけてしまうのは、「悪口」を超えて「差別・偏見」になります。このようなことは、人権学習でも学んでいると思います。もう一度言うところ、「悪口」とは「集団の中で誰かと比較して、他人を劣った存在だと言うこと」です。つまり「悪口」は差別や偏見につながるということです。だから「悪口」は言わないようにしましょう。

「悪口」を言わないことは、「想像力」と「共感力」が大切になります。また、これからの未知の社会を生きていくためにも「想像力」と「共感力」は必須アイテムになっています。

では、この「想像力」と「共感力」を身に付けるためには・・・それは、自ら体験することでしかこの力を高めることはできません。体験がない人は、これからのことの想像や、相手はこんな気持ちかなという共感をもつことはできないからです。だから、逆算的に考えて、「想像力」「共感力」を育むためには、自ら体験する量や深さが求められます。でも、体験している中で、誰しも必ず高い壁にぶち当たります。その壁を目の当たりにして、私たちは、その壁を越えられないと思ってしまう。

みなさんに伝えたい。「壁を一気に越えることはできないのは当たり前です。大切なのは、“壁を階段に変える力”をもつ！」ということです。

これからの社会で活躍する人になるために、「想像力」「共感力」は必須アイテムになることを忘れないでほしいと思います。ついでに「悪口」もなくし、いろいろな経験がどんどんできる雰囲気のある学校を一緒につくっていきましょう。